

教員名	佐々貴 義式 (SASAKI Yoshinori) 【通称：佐々木 嘉則】
所 属	人間文化研究科国際日本学専攻応用日本語論講座
学 位	MA in English as a Second Language (applied linguistics) (1986 ハワイ大学)、 PhD in Education (educational psychology) (1992 イリノイ大学)
職 名	助教授
URL / E-mail	<a href="http://jsl2.li.ocha.ac.jp/kyookanHP/yoshi/index.html">http://jsl2.li.ocha.ac.jp/kyookanHP/yoshi/index.html</a> <a href="http://sa_yoshi.at.infoseek.co.jp/ocha/">http://sa_yoshi.at.infoseek.co.jp/ocha/</a> / <a href="mailto:sa_yoshi@cc.ocha.ac.jp">sa_yoshi@cc.ocha.ac.jp</a>

## ◆研究キーワード

心理言語学 / 第二言語習得論 / 外国語教育学

## ◆主要業績

総数 ( 4 ) 件

- ・ SASAKI, Yoshinori & MacWHINNEY, Brian (2006). The competition model. In Ping Li, Mineharu Nakayama, Reiko Mazuka, Yasuhiro Shirai (Eds.) Handbook of East Asian Psycholinguistics Vol.2: Japanese. Cambridge University Press. 307-314.  
[http://www.amazon.co.jp/gp/product/0521833345/sr=8-1/qid=1158808816/ref=sr\\_1\\_1/249-5293069-0394725?ie=UTF8&s=gateway](http://www.amazon.co.jp/gp/product/0521833345/sr=8-1/qid=1158808816/ref=sr_1_1/249-5293069-0394725?ie=UTF8&s=gateway)
- ・ お茶の水女子大学日本語文化学会『言語文化と日本語教育』増刊特集号編集委員会 (編集責任者 佐々木嘉則) (2006)『第二言語習得・教育の研究最前線 2006年版』
- ・ 佐々木嘉則(2006). 「研究テーマ選びにおける困難点」『言語文化と日本語教育 2006年11月増刊特集号』104-108.
- ・ 佐々木嘉則(2006). 「分野別・日本語習得レビュー論文総覧 (～2006)」『言語文化と日本語教育 2006年11月増刊特集号』110-121.

## ◆研究内容

私の研究目標と実践

目標1：第二言語習得・教授研究の最新の成果を総括した論集を継続発行する。

実践：

(1) 言語習得・教授に関する総括論文集を編集発行した。

(2) 総括論文の執筆を目指す若手研究者のためのワークショップを開催し、特にテーマ選択・参考文献および対象範囲の設定と切り口・章構成を中心に指導助言を与えた。

目標2：言語処理および習得に関する研究を進める。

実践：実験心理言語学に関する英語総括論文を執筆した(共著論文の筆頭著者)。この論文を収めたハンドブックは、2006年にケンブリッジ大学出版会から出版された。

目標3：若手研究者の研究能力を伸ばすノウハウを蓄積する。

実践：出版社の依頼を受け、上記テーマに関する書籍を準備中である。

## ◆教育内容

私の教育目標と実践

目標1：学士課程新入生のアカデミックリテラシースキルを伸ばす。

実践：「アカデミックリテラシー入門」と題する基礎ゼミ授業を開講し、アイデアの視覚表現、アウトライン作り、段落構成、パワーポイントによるプレゼンテーション、発表資料作成を中心に実習を行った。

目標2：第二言語習得論および心理言語学に関する専門知識と研究の能力の養成

実践：

次の授業科目を開講した。

(1) 学士課程における、第二言語習得論講義・演習

(2) 修士課程における、心理言語学講義・演習・実習

(3) 博士後期課程における、第二言語習得論演習

次の大学院生向け勉強会を主宰・支援した。

(1) 言語習得理論に関する輪読会

(2) 認知学習に関する輪読会

目標3：学生の研究・論文執筆能力および研究者としての自覚を高める。

実践：

(1) 修士課程在学者のための応用言語学研究法実習を開講した。

(2) 修士課程在学者および博士後期課程在学者のためにそれぞれ、総括論文執筆のためのワークショップを開いた。

## ◆Research Pursuits

---

My research goals and practices:

Goal 1: Compiling state-of-the-art reviews on second language acquisition and instruction.

Practices: (1) I edited and published anthologies of review articles on language acquisition and instruction. (2) Also, I organized workshops for prospective contributors of such articles, with an emphasis on theme choice, reference, scope setting and reference selection, perspective taking, and chapter organization.

Goal 2: Pursuing mechanism of language processing and acquisition.

Practices: I co-authored an article on experimental psycholinguistics, and contributed it to a handbook published in 2006 (Cambridge University Press).

Goal 3: Accumulating know-how on developing students' research skills.

Practice: I am drafting a book on researcher training.

## ◆Educational Pursuits

---

My educational goals and practices:

Goal 1: Developing newly-enrolled undergraduate students' academic literacy skills.

Practices: I taught a freshman seminar including practicums on mind map, outlining, paragraph writing, PowerPoint presentation, and resume preparation.

Goal 2: Developing students' expertise in second language acquisition and psycholinguistics.

Practices:

I taught (1) undergraduate lecture/seminar in second language acquisition, (2) Masters' lecture/seminar/practicum in psycholinguistics, and (3) Doctoral seminar in second language acquisition.

Also, I organized study groups for postgraduate students in (1) language acquisition theories (2) cognitive learning theories.

Goal 3: Developing students' academic writing/research skills and awareness as researcher.

Practices: I taught (1) Masters' research practicum in applied linguistics, and (2) organized a review-article-writing workshop for Masters' and doctoral students.

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

(1) 科研費の助成を受けた総括論文の集成事業を今後とも継続する。さらに長期的な展望としては、論集掲載論文の著者達の共著による、日本語習得論の本格的な概説書を編集し出版したい。

(2) 研究室の実験環境を整え、実験心理言語学の手法による習得研究を継続したい。

(3) リサーチクエスチョンの設定指針を軸にした、若手研究者向けの研究ガイドを出版したい。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

●学士課程進学希望の方へ：

(1) 本学には今のところ日本語教育を主専攻とする学士課程プログラムはありませんが、「日本語教育基礎コース」の所定科目を履修することにより、卒業時に課程修了証を取得することができます。

<http://jsl2.li.ocha.ac.jp/kiso.html>

(2) 卒業後、日本語教育コースの博士前期課程への進学の道も開かれています。将来大学院への進学を希望する方は、大学在学中に外国語・言語学・発達／認知心理学など、将来の研究の基礎となる学問やスキルをしっかり身につけておくことをお勧めします。

(3) 日本語教師という職業に拘らず、諸言語の働きと仕組みやその学習／習得に関する科目を広く本学で受講することもできます。

(4) 教育学、社会学、地理学、心理学など、さまざまな分野で、日本語学習者や日本語教師を対象とした研究が増えています。

●博士前期（修士）課程進学希望の方へ：

次のページを参照してください。

<http://jsl2.li.ocha.ac.jp/index.html#nyuushi>

<http://jsl2.li.ocha.ac.jp/QA/index.html>

●博士後期課程進学希望の方へ：

日本語・英語をはじめとする言語の習得やその処理過程に興味のある方をお待ちしています。日英語の習得過程の比較対照など言語比較的研究や、認知科学的な視点に興味のある方を特に歓迎します。私自身も、修士課程は英語教育学専攻、博士課程は認知教授心理学専攻で修論と博論は日英語の比較習得研究、そして日本語教師歴20年というハイブリッド型研究者&実践家です。

[http://sa\\_yoshi.at.infoseek.co.jp/ocha/D-kiboo.html](http://sa_yoshi.at.infoseek.co.jp/ocha/D-kiboo.html)